

アドバイザー委員会の開催

「組織の再編による将来の成長構想」

アドバイザー委員会では、当グループの運営に関する課題を社外からの観点で大学教授や経営者の方々に社外からみた経営の助言を頂き、検討していく委員会です。今回は組織再編にむけ、2008年7月16日に第1回と2009年2月5日に第2回を開催いたしました。グループ組織編成にあたり、企業の成長戦略として重要なご意見をいただきました。

第1回アドバイザー委員会 アドバイザー

サッポロ飲料株式会社 元代表取締役社長
岡 俊明 様

東京理科大学大学院 教授
松島 茂 様

和光化学工業株式会社 代表取締役社長
吉濱 達三 様

第2回アドバイザー委員会 アドバイザー

サッポロ飲料株式会社 元代表取締役社長
岡 俊明 様

群馬大学 研究・産学連携戦略推進機構 客員教授
須齋 嵩 様

委員長からのご意見

ステークホルダーとの信頼を築くCSR経営

— メーカーとしてのハルナグループに対する期待・要望 —

今や、企業が継続的発展を遂げる時、企業を取り巻くあらゆるステークホルダーとの優良な関係構築なくして、期待する成長は望めないところであります。とりわけ製造メーカーとしてモノづくり、開発力が、企業の成長・発展の起爆剤、原動力であります。市場変化に的確に対応し、顧客支持を勝ち取り、持続的成長を実現している企業に共通していることは、優良な取引先（購買先）と深い絆と信頼関係を構築、互いに良い緊張感の中で共生し、顧客満足を追い求めているということです。メーカーにとって優良な取引先といかに関わっているかが成長戦略の要諦でもあります。優良な取引先は会社の資産であり、財産といえます。

これから求められる取引先のあるべき姿をあえて5つの視点から考えてみますと、

- ① 取引先企業が財務内容を含め経営体質が健全であること
- ② 現状に満足することなく顧客視点でのたゆまぬ改善・改革意欲が旺盛であること
- ③ 食品・飲料事業にとって食の安心・安全を含め誠意ある取組みと透明性
- ④ ただ単に一定の数量を決められた時間内に間違いなく造る能力を求めている訳ではなく、強いて言えば参謀としてのたゆまない提案能力を保有していること
- ⑤ 市場変化の激しい時代、すべてにスピードある対応を可能とする組織風土を持ち得ていること

出来得れば、互いにグループ企業の認識に立って、友好企業として高い志を持ち、顧客の生活の豊かさに貢献し、質的向上に寄与する企業でありたいものです。そして、社会にとって真に必要な会社として、共に持続的発展を図ることが極めて肝要であると考えます。



ハルナビバレッジ株式会社 アドバイザー委員長
ISOマーケティング代表
サッポロ飲料株式会社 元代表取締役社長
岡 俊明 様

社外取締役からのご意見

経営の健全性と透明性、コーポレートガバナンスを遵守し、環境の変化に迅速な対応をするため、当グループは、実務経験豊かで見識を備えた方に社外取締役に就任していただいております。客観的な視点よりハルナビバレッジ株式会社の社外取締役のお二人から当グループについてご意見を頂きました。



ハルナビバレッジ株式会社 社外取締役
群栄化学工業株式会社 代表取締役社長
有田 喜一 様

私が当社の社外取締役に就任してから10年ほどになりますが、当初は会社の内容がわかりにくく、また会社としてのガバナンスやコンプライアンスも今ほどうるさくなかった時代でした。

そのころから見れば今は当社も格段の相違で会社の内容が明確になり、又社員の方々の会社に対する関与の仕方も非常に積極的であると感心しています。

とりわけ製品の品質管理への取り組みは感心させられます。創業以来青木会長の指導の下社員の皆様が終始統率の取れた行動をしていると思いますが、コンプライアンスという意味では組織、役職員が法令、社会規範、社内規則等の遵守と違反行為の報告、相談および通報を受ける体制が必要とされています。

ガバナンスは今まで監査役会がその役割を果たしてきていると認識していますので今後も期待しています。

リスク管理についてはこのたびの組織改定により小出副会長が財務の統制に尽力されるとのことで期待をしています。



ハルナビバレッジ株式会社 社外取締役
群馬大学 研究・産学連携戦略推進機構 客員教授
須藤 嵩 様

「青木イズムの伝承と第二創業に飛躍を」

当社は幅広い嗜好を持たれておられる消費者の皆様楽しく、ヘルシーで、喜ばれる商品を提供しています。そして、お客様にハルナビバレッジブランドの高い価値を知っていただくことです。そのためには「最良な品質を最適な価格で提供する」「お客様が満足されることであればあらゆる方策を立てて実行する」「できる限りの商品レパートリーを揃える」等の顧客満足度をさらに上げることです。

2009年度から第二の創業期に入りましたが、創業者青木清志氏の経営イズムすなわちハルナ企業文化をしっかりと伝承させてゆくことです。そして、継承しながらも革新を続けることであり、

- ① 創業者の築いている経営風土を確固たるものにする。
- ② お客様から認められる企業の品性を高める。
- ③ より高い収益をめざして、一層の社会の評価を高める。
- ④ グローバルな業務活動を通して、多くの国の方に商品提案する。
- ⑤ 優秀な人材が多く集まり、素晴らしい商品を提案できる企業にすることです。

社員一人ひとりが研鑽をし、持続できるような企業土壌を作り、自己のミッションを十二分に発揮していただくことです。

編集にあたり

本報告書をご一読いただき、誠にありがとうございました。

2008年度版に引き続き、CSR推進室を編成し、ハルナグループのCSRに積極的な姿勢を示すとともに、個々のCSR活動に関して具体的にわかりやすくお伝えできるよう努めました。

CSRを遂行するための「社内体制」を説明したうえで、CSRを構成する「企業倫理」「企業方針」「ものづくり」「環境」「透明性」「社員育成」の各テーマで、私たちの取り組みをご紹介いたしました。

この報告書を通して、ステークホルダーの皆様との対話を広げて、皆様からのお声を反映し、より一層社会に役立つ企業でありたいと考えています。率直なご意見・ご要望をお寄せ頂ければ幸いです。



ハルナビバレッジ株式会社
広報・秘書室
黒澤 厚美